

今冬注意すべき感染症 ～インフルエンザ、鳥インフルエンザ、ノロウイルス～

巻頭言

今年最後の巻頭言は、先月に引き続きマルマの現在の二つの問題点についてお話ししたいと思います。先月は「人の採用」についてでしたが、今回は「新規事業の拡販」についてです。

まずなぜ新規事業が必要であるのかについてお話しします。それは「売上を増やすため」の一言に尽きます。ではなぜ売上を増やす必要があるのかと云えば、それは若者の雇用を維持し、終身的に働ける環境を作るためだと考えています。終身雇用と云うとちょっと古い考え方の様に思われる方もいらっしゃると思いますが、私は可能であるならばこの終身雇用が続けられる会社になりたいと思っています。それには20、30代の若者が40、50代に成った時に、人並みの生活が出来る給与体系を示し維持しなければいけません。そしてさらにそれには給与を増やすための原資である売上をやはり増やさなければいけないのです。ただそれは急激である必要はありません。徐々に増える社員構成のピラミッドが維持できる速さであれば良いと思っています。またマルマの仕事は必ず人の手が介在する為、人の成長がまず必要で元々急激に売上を増やせる業種ではありませんので、これならマルマでも頑張ればなんとか続けられそうな気がしています。

ただそんなに新規事業があるのかと云う問題がありますが、私は今まで全くの新規事業などは考えたことがありません。（考えられないのがほんとのところですが。）私の考える新規事業は「本業に沿った近くの仕事で、中身は分かっているが今まで手掛けたことが無かったもの」くらいのもので、これなら少し頑張れば出来そうだし、永遠に新規事業を考え続けられそうだなと思っています。今まで入社以来24年間やってきた新規事業は、全てこの考え方で始めたものばかりです。殺菌業務・検査業務・計量証明・水質分析（モノクロラミン消毒）などすべて本業に沿った仕事で、少々事業領域を広げる程度の新規事業です。当然そんな簡単に売上が増えるはずはありません。マルマにとって新規事業でも、そこには既にその仕事を事業としている会社はあるからです。ただこれを解決するのが時間です。先述したとおり、売上を急激に増やす必要はなく、時間を掛けて信頼を築きながら、社員構成のピラミッドが維持できるスピード感で増やして行くことが成功の秘訣と考えています。

一年本当にお世話になりました。来年も信頼いただける仕事をするをお約束し、今年最後の巻頭言とさせていただきます。良いお年をお迎えください。

(雅)

今冬注意すべき感染症

今年はインフルエンザが例年より早く流行期に入っており、既に10都県で注意報が出ています。また、鳥インフルエンザやノロウイルスも警戒が必要になってきています。そこで、今回のエムテックインフォメーションでは、これらの冬に注意すべき感染症について紹介させていただきます。

インフルエンザ

インフルエンザは、感染後1~3日の潜伏期間の後に症状が現れ、通常は10日前後で症状が落ち着き、治癒します。インフルエンザと風邪は症状など共通する点もありますが、以下のような違いがあります。

	インフルエンザ	風邪
原因	インフルエンザウイルス	様々なウイルスや細菌（200種類以上）
症状	38度以上の高い発熱	通常は37度~38度の発熱
	咳、くしゃみ、鼻水などの呼吸器症状に加え、関節痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状を併発	咳、くしゃみ、鼻水、喉の痛みなどの呼吸器症状が主
	急激に発症	比較的緩やかに発症
流行時期	冬季（12月~2月）に多い	1年を通じて散発

インフルエンザは、喘息などの基礎疾患がある人、乳幼児や高齢者などの免疫力の低い人などは重症化する可能性が高く、肺炎や脳炎などを合併することがあるため、特に注意が必要です。

ワクチン

インフルエンザから身を守るには、手洗い・うがい・マスクの着用なども大切ですが、ワクチン接種が効果的です。ワクチンは、インフルエンザが発症する可能性を減らす効果、重症化するのを防ぐ効果があります。

ワクチンで予防できる仕組み

通常は、ウイルスが体内に入ると体内で増殖して発病してしまいますが、右の図のように、①事前にワクチンを接種しておけば、②ウイルスから身体を守ってくれる「抗体」が出来るため、③ウイルスが体内に入っても、④抗体がウイルスを攻撃して体内で増殖するのを防ぐことができます。この抗体は、ウイルスの型ごとに異なるため、毎年流行するウイルス型を予測してワクチンの組み合わせが変更されています。



2016-2017年のインフルエンザワクチンの種類

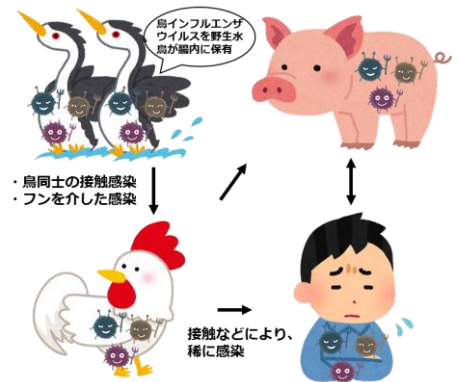
ワクチンは、昨シーズンより3価から4価のタイプに変更されており、ワクチンで予防できるインフルエンザウイルスの型が増えています。今シーズンのワクチン製造に使用されているウイルスは右の4種類です。国立感染症研究所により、国民の各ウイルス株に対する免疫状況が調査されており、免疫を持っていない人が多い年齢層（要注意年齢層）に対して注意喚起がされています。

表 2016-2017年インフルエンザワクチンの使用株

使用ウイルス株	要注意年齢層
A カリフォルニア型	0-4歳、60代後半以上
A 香港型	0-4歳、40-60代前半、70歳以上
B 山形系統	0-4歳、60歳以上
B ビクトリア系統	全年齢層

鳥インフルエンザ

鳥インフルエンザとは、A型インフルエンザウイルスが鳥類に感染することで起こる病気で、養鶏場などで問題になっています。特に、伝播力が強く致死性が高い「高病原性鳥インフルエンザ」の場合、家畜伝染病に指定されており、防疫措置をとることが定められています。発生した場合、発生した農家だけでなく、養鶏産業全体への影響が大きくなっています。



発生状況

今年11月に青森県の家禽農場、新潟県の養鶏農場で高病原性鳥インフルエンザ（H5N6亜型）の感染が確認されました。2003年以降、アジアからヨーロッパ、アフリカへと広がり、日本でも頻繁に発生するようになってきています。海外からの渡り鳥による持込みだけでなく、人や物を介した侵入も考えられるため、国内にウイルスが侵入してくるという前提の下で予防対策をしていくことが重要です。

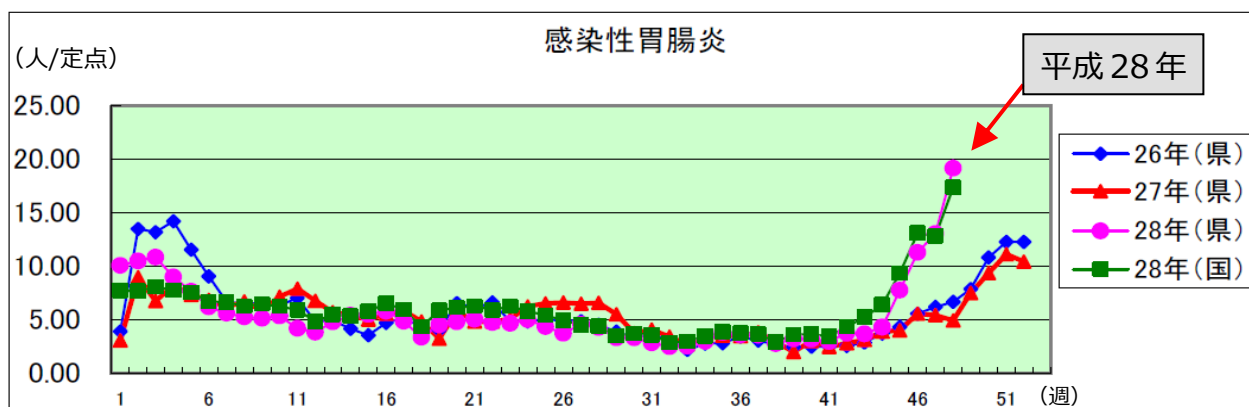
予防対策

各関係機関が、次のような調査や対策を実施しています。

- 環境省 渡り鳥の飛来経路の解明・飛来状況の調査、野鳥の糞便検査 など
- 農林水産省 家禽のための衛生管理ガイドラインの作成、飼養衛生管理基準の設定 など
- 都道府県 農場の検査 } 農家の防疫意識の向上、定期的な健康観察、
衛生管理区域の設定や消毒の徹底、防鳥ネットによる野鳥の侵入防止など

ノロウイルスが大流行の兆し、食中毒に注意！

ノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎の患者が11月中旬より急増しており、今シーズンは近年で最も流行した2012年と同じペースで報告されています。各地で感染性胃腸炎の患者報告数が警報基準値を超え、警報が発令されています。



感染性胃腸炎の感染報告の推移 (引用：静岡県環境衛生科学研究所感染症情報センター)

感染者が多く、**ノロウイルス食中毒も発生しやすい状況**になっているため、調理従事者の健康管理などの強化が必要です。

各種ノロウイルス検査、環境殺菌は弊社までご相談下さい。

害虫紹介

ヒョウホンムシ類

食品を加害する害虫には冬季でも活動する種が知られています。ヒョウホンムシ類は特に冬季に発生の増える害虫で、一般住宅で発生する事もあります。

生態

ヒョウホンムシ類は体長2～5mm程の甲虫の仲間で、この名前は動植物の標本を食害する事に由来します。日本では7種が知られ、ニセセマルヒョウホンムシ、ナガヒョウホンムシ、ヒメヒョウホンムシが主で、乾燥した動植物質を好んで餌とします。耐寒性があり、初冬～春にかけて発生する種が多いです。一部の種を除いて移動能力に乏しく、後翅が退化して飛翔することが出来ません。



図 ニセセマルヒョウホンムシ
Gibbium aequinoctiale

被害

動植物の標本や米ぬか、トウモロコシ粉、小麦粉、煮干し、ペットフードなどの乾燥した貯蔵食品を食害するほか、毛織物なども加害します。また、殺鼠剤に配合されている種子やパン粉が発生源となる事があります。自然環境では、ネズミの糞や乾燥した動物死骸を餌としており、鶏糞乾燥場で大量発生した例が報告されています。食品工場などの食品庫で発生して問題となる事が多いですが、一般住宅の天井裏で発見される事もあります。直接的に人に危害を加える事はないですが、異物混入の原因となり、大量発生して不快感を与える場合があります。

対策

ヒョウホンムシ類の好む食品は気密性の高い容器で密閉して保管し、こぼれた食品残渣などを定期的に清掃によって除去する事が大切です。動物標本などは衣類害虫用の防虫剤とともに保管する事で被害を予防できます。また、成虫はピレスロイド系のエアゾール剤で駆除が可能です。ネズミが生息している場合、その糞から発生するため、併せてネズミの駆除が必要です。

食中毒情報

今月は、少量の菌数で発症するカンピロバクターやノロウイルスの食中毒が多発していました。今後さらなる増加が予想されています。特に、ノロウイルスは飲食店・仕出し弁当・給食・ホテルなどで数十人～数百人規模の患者が出る事件が10件以上もあり、感染した調理従事者が原因で発生しているケースが多い状況です。前頁でも紹介したように、全国的にノロウイルスの感染者が急増しているため、飲食店や食品工場での調理従事者によるノロウイルス汚染が多発していると推測されます。

始業時の健康チェックや冬季の定期的なノロウイルス検査は、多くの事業所で普通に実施されるようになってきました。予防のためには、ノロウイルス検査は必須の項目になってきています。まだ取り組めていない事業所があれば、ご相談ください。

全国食中毒発生状況 (11/14～12/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	33	1076
カンピロバクター	16	120
自然毒	7	21
寄生虫	7	17
不明・その他	5	66

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
株式会社 MARUMA エムテック衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11 TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120	名古屋支店	／ 〒452-0946 愛知県清須市廻間 1-5-9 TEL：(052)325-3306 FAX：(052)325-3326
東京支店	／ 〒194-0004 東京都町田市鶴間 424-1-402 TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15 TEL：(078)842-6755 FAX：(078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1 TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220	福岡支店	／ 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑 1 丁目 6-15 TEL：(092)586-6421 FAX：(092)586-6321